

本校生徒が原フェスで展示した、段ボールで作ったダンボルギーニと、女川町復興のシンボルとなったダンボルギーニ（今野梱包株式会社 今野英樹代表取締役社長が制作した原寸大のもの）が、様々な方々のご縁でつながった。

太平洋に面する女川町。震災時の津波で横倒しになった旧女川交番（震災遺構）は、今もその被害の大きさを静かに伝えている。今野社長の梱包会社も大きな被害を受けたものの、段ボールを活用したベッドやパーテーションを避難所に提供し、支援に力を尽くされた。

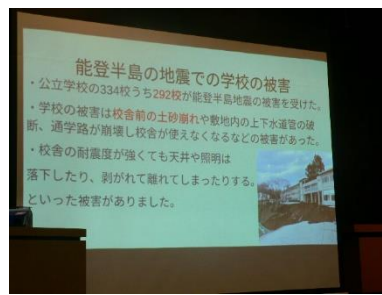
また、震災後、人口流出の動きが加速する中、今野社長は地域の若者に、夢を実現する大人の姿を見せたいと考え、原寸大のダンボルギーニ制作を始めた。1年かけて完成したピンクのダンボルギーニ。全国から多くの観光客が女川を訪れ、ダンボルギーニを見て驚き、笑顔になって元気をもらい、ダンボルギーニは女川の復興のシンボル、ひいては東北復興のシンボルとなっていった。

今野社長の座右の銘は「探さないものは見つからない。求めなければ掴めない。」である。

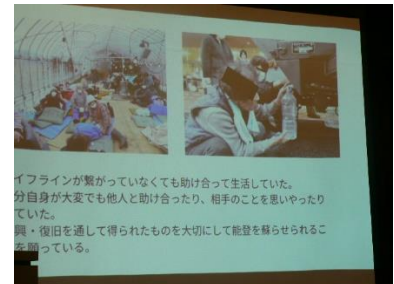
## (1) 能登半島地震



1年生 能登の風土



2年生 地震の被害



3年生 復旧・復興へ

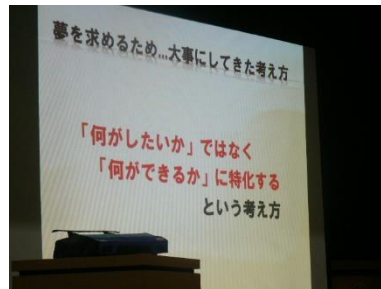


生徒会が一人一人のメッセージを寄せ書きにして、被災した中学校に送ります。

今回、調べ学習をして  
発表した生徒たち



## (2) 講話「ダンボルギーニで子供たちに夢を」今野 英樹氏



## (3) 復興ソング